

2011年度(2012年3月期)

決算説明会



株式会社エージーピー

2012年5月25日

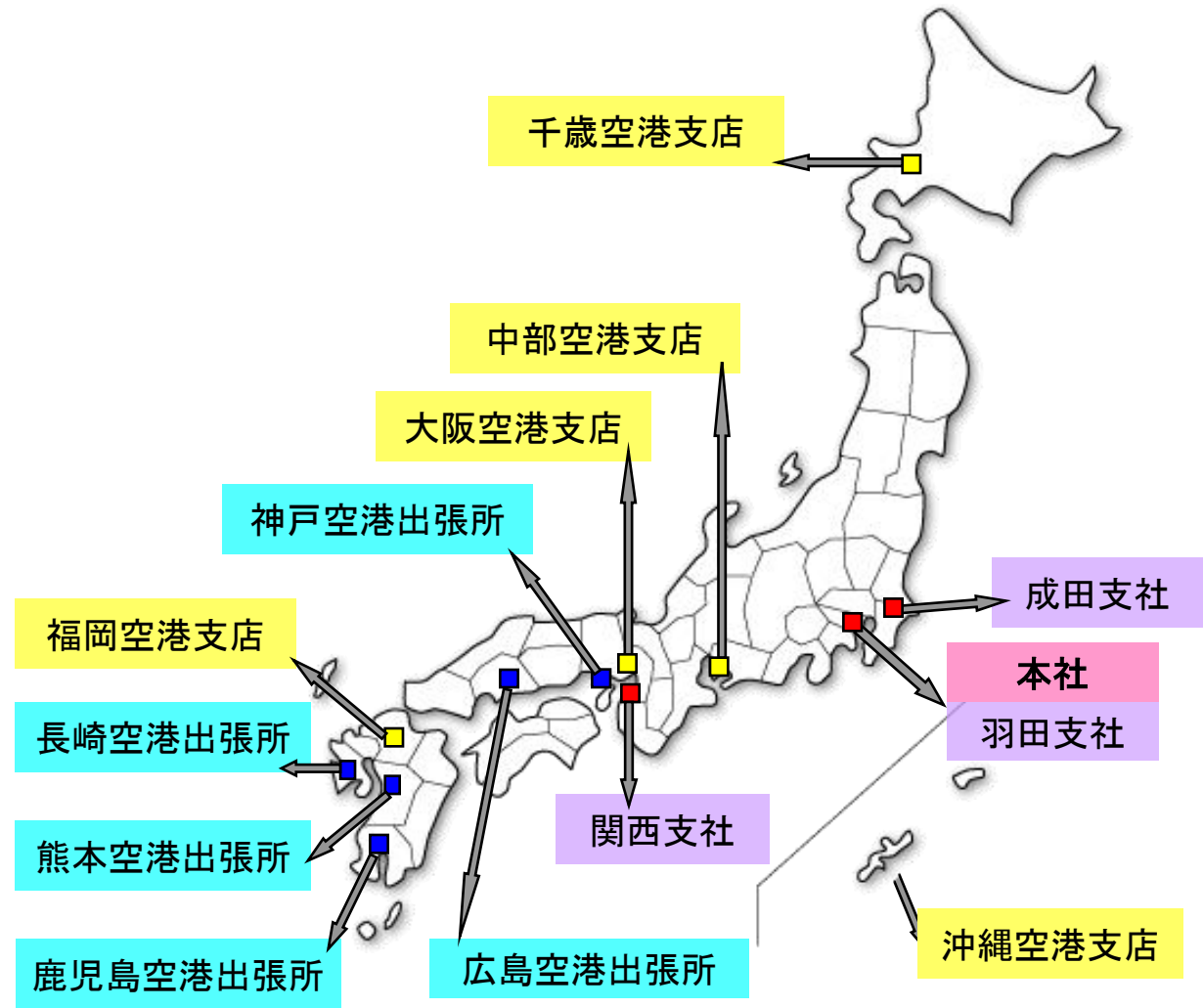
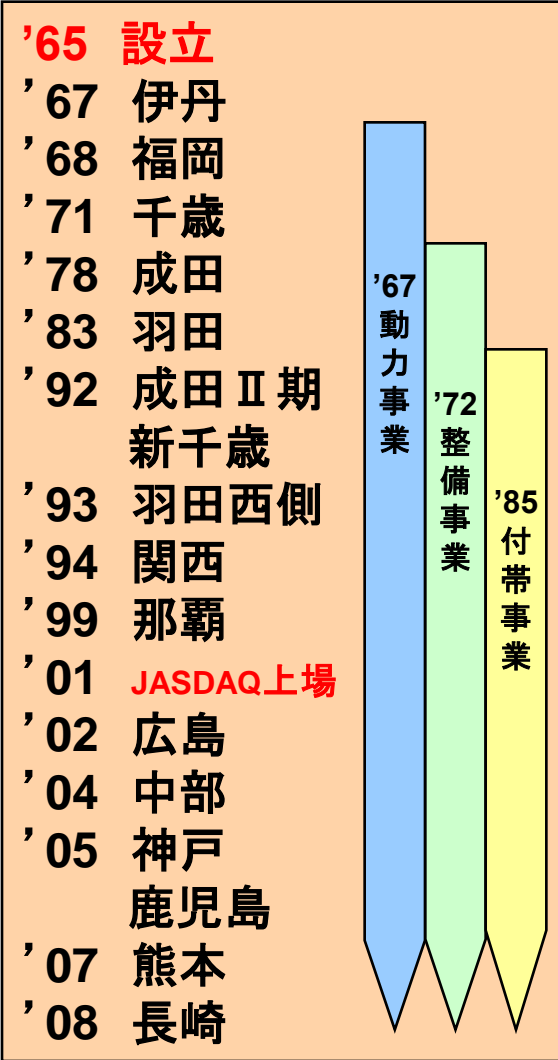
LEVEL XXI東京會館「シルバールーム」

当社事業の概要

2011年度(2012年3月期)業績報告

2012～2014年度 中期事業計画

当社発展の軌跡



当社の事業概要

動力供給(電力・エアコン)は、航空機の排気ガスや騒音を防ぎ、航空燃料を節減し、「地球環境の浄化保全」に役立っています。

動力事業
(設備投資型)

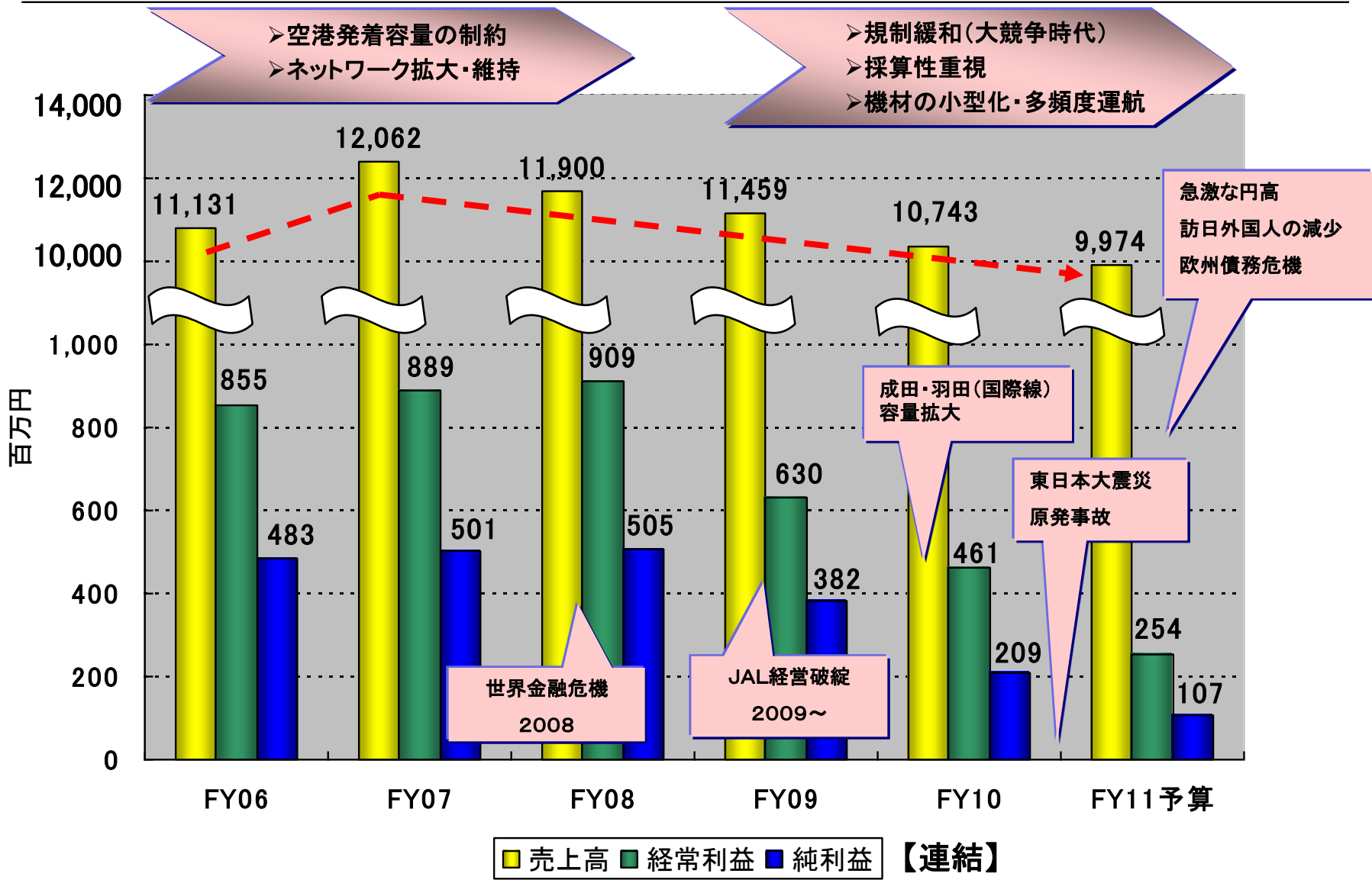
整備事業
(役務提供型)

付帯事業
(メーカー・役務提供型)

経営資源の配分

項目	売上	資金需要	投入人員	主な顧客
動力事業	50%	97%	30%	航空会社
整備事業	40%	1%	60%	空港会社・航空会社
付帯事業	10%	2%	10%	病院・空港会社・航空会社
			680人	航空関連売上は全体の約95%

業績の推移



当 社 事 業 の 概 要

2011年度(2012年3月期)業績報告

2012～2014年度 中期事業計画

2011年度 業績

(単位:百万円)

項目	①FY10実績	②FY11予算	③FY11実績	③-①	③-②
売上高	10,743	9,974	10,091	△652	116
セグメント利益	1,191	930	1,038	△152	108
販管費	667	626	614	△53	△11
営業利益	523	304	424	△99	119
営業外損益	▲62	▲49	▲49	13	—
経常利益	461	254	375	△85	120
特別損益	▲57	▲45	▲53	3	△7
税引前当期純利益	403	208	321	△82	113
法人税および法人税等調整額	▲194	▲101	* ▲202	7	101
当期純利益	209	107	119	△89	11

FY11予算 動力事業はHND国際線地区の通年化による増収を見込むものの、JAL経営再建による大幅減便や、航空機小型化の進行、原発事故の影響による減収を想定した。また、付帯事業はフードカート販売の減収、整備事業は顧客の経費節減施策強化による減収を想定した。

FY11実績 動力事業および付帯事業はほぼ予算どおりの売上高となったが、整備事業は顧客の経費節減施策は強化されたものの、老朽化した設備の改修や修繕工事があり、FY10並みの売上高となったため、約1億円の増収となった。また、コスト削減が想定以上に進んだことで営業利益も約1億円の増益となった。

* 税効果会計における法定実効税率の変更に伴う法人税等調整額が増加(影響額 61百万円)

2011年度の主な取り組み

- 社員の意識改革・課題の共有
- 総人件費の抑制
- 設備投資の抑制
- 動力料金の改定(2011年8月)
- 夏期の電力供給制約への対応
電源車・エアコン車を活用し、売上への影響は軽微

①動力事業 収支

売上

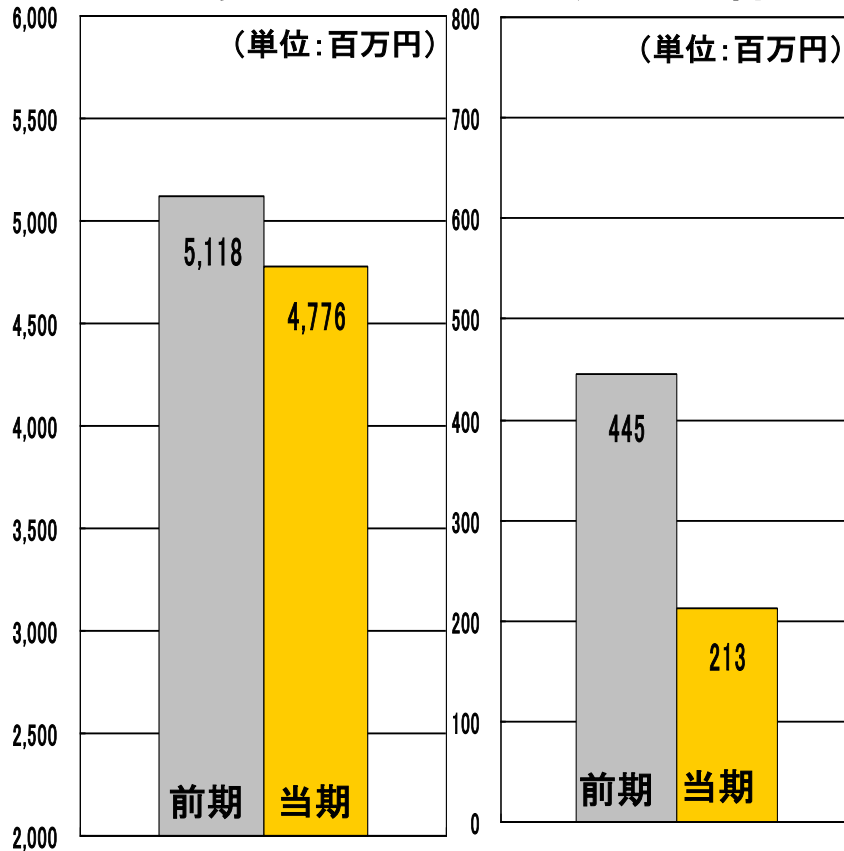
4,776 百万円 前期比 △342

セグメント利益

213 百万円 前期比 △231

売上

セグメント利益



[売上]

- ・震災、原発事故の影響による減便・運休
- ・航空機の小型化、供給時間減少による減
- ・羽田国際線地区通年化による増
- ・2011年8月、動力料金の改定を実施
電気料金を値下げし、エアコン料金を値上げ
機種別料金の適正化
国内線料金と国際線料金の統一

[費用] 前期比△110

- ・原材料費の減 $\Delta 87$
- ・労務費の減 $\Delta 50$
- ・整備維持費の減 $\Delta 17$
- ・減価償却費の増 $+37$
- ・租税公課の増 $+16$

②整備事業 収支

売上

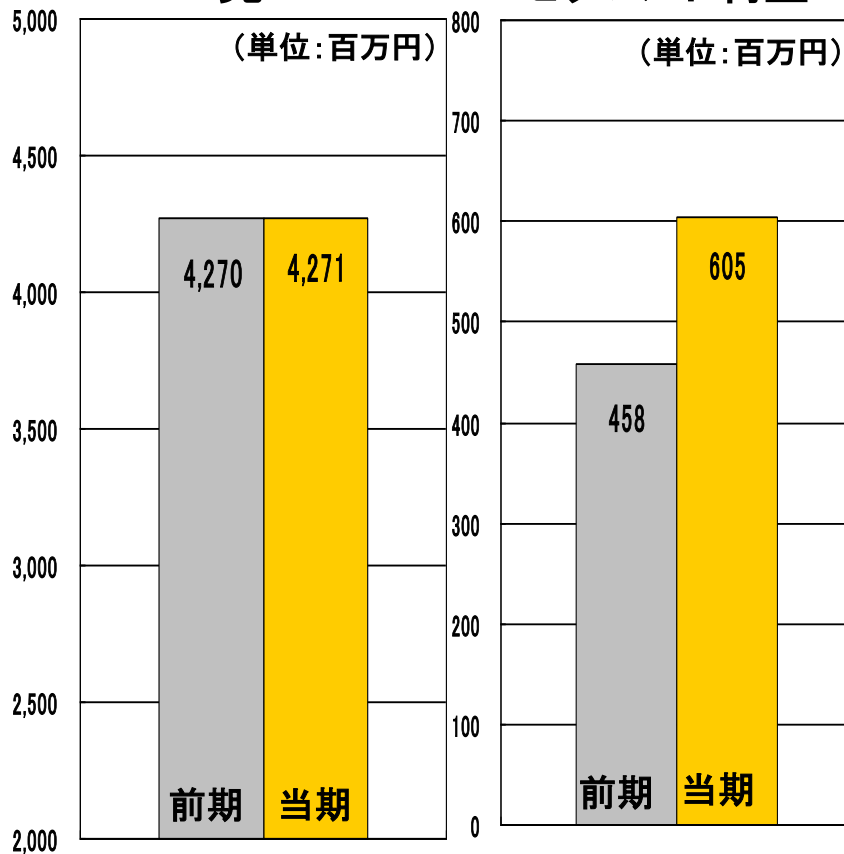
4,271 百万円 前期比+1

セグメント利益

605 百万円 前期比+146

売上

セグメント利益



[売上]

- ・補修工事の増 +148
- ・基本契約の減 $\Delta 20$
- ・別件作業の減 $\Delta 126$

[費用] 前期比 $\Delta 145$

- ・労務費の減 $\Delta 66$
- ・材料費・外注費の減 $\Delta 18$
- ・消耗品費の減 $\Delta 10$
- ・旅費交通費の減 $\Delta 10$

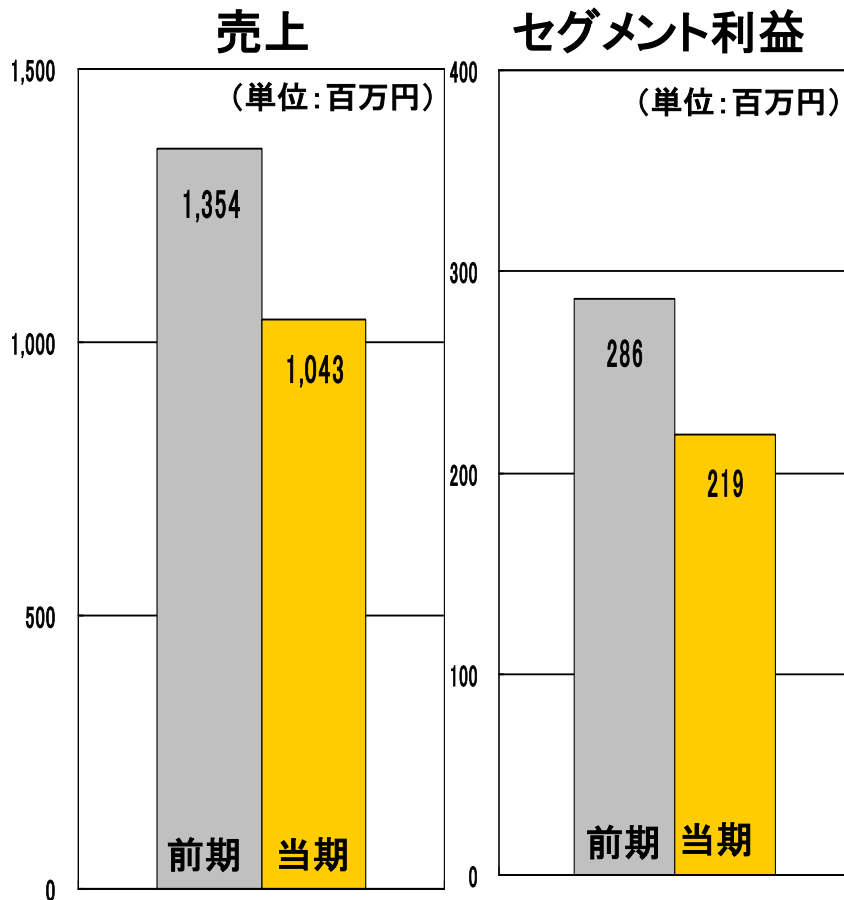
③付帯事業 収支

売上

1,043 百万円 前期比△311

セグメント利益

219 百万円 前期比△67



[売上]

- ・フードカート販売の減 △254
- ・航空機用部品管理業務の減 △37

[費用] △243百万円

- ・販売外注・材料費の減 △129
- ・労務費の減 △73
- ・販売修繕費の減 △10

2011年度 設備投資額等の実績

(単位:百万円)

項目	FY10	FY11	増減
設備投資額	1,077	123	△954
減価償却費	951	978	27
有利子負債	3,668	3,147	△521
グループ人員数	699	680	△19

営業利益／経常利益／当期純利益

営業利益

424百万円 前期比△99

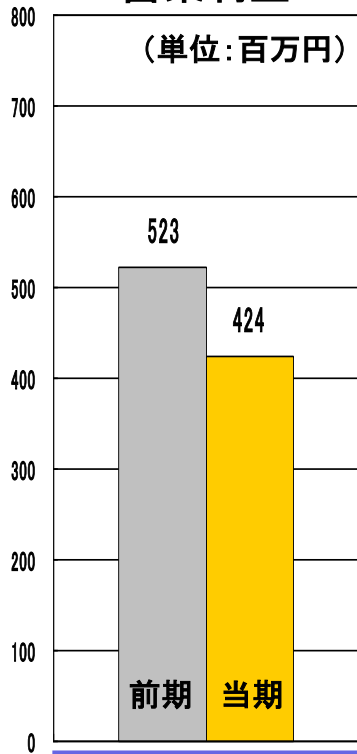
経常利益

375百万円 前期比△85

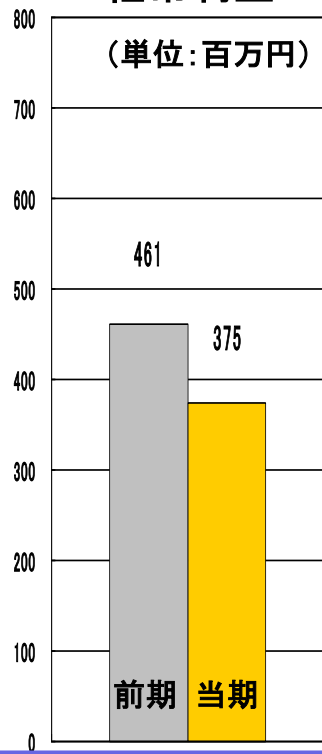
当期純利益

119百万円 前期比△89

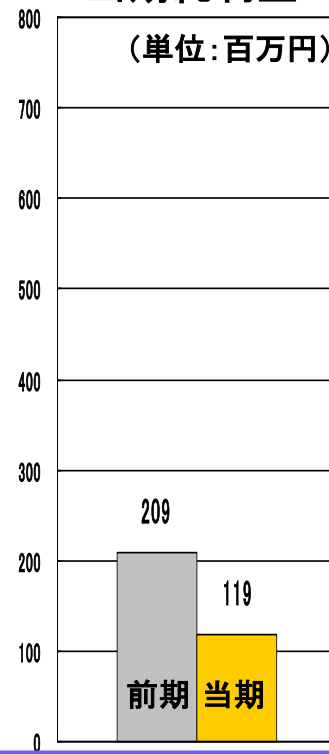
営業利益



経常利益



当期純利益



<利益の増減要因>

セグメント利益の減 $\Delta 152$
 販売費及び一般管理費の減 $+53$
 労務費・旅費交通費・社外役務費 等

<経常利益の増減要因>

営業利益の減 $\Delta 99$
 営業外費用(支払利息)の減 $+13$

<当期純利益の増減要因>

経常利益の減 $\Delta 85$
 特別損失の減 $+3$
 法人税等の増 $\Delta 7$

配当につきましては、7円を予定しています

当社事業の概要

2011年度(2012年3月期)業績報告

2012～2014年度 中期事業計画

経営環境

不透明な経済状況

- 消費増税の成り行き
- 震災・原発事故による影響
(電力不足・値上げ)
- 欧州債務危機
- 新興国経済の牽引力

本邦航空会社の取り巻く環境
 オープンスカイ政策の進展
 首都圏空港の発着枠拡充
 新幹線の延伸(九州・北陸)

航空業界の競争環境の変化
 LCCの台頭
 JAL再上場
 新型機材(B787、A380)の増加

好材料・不安材料が混在

空港経営の抜本的な改革
 民営化、運営権売却
 関空・伊丹の統合等

リスク耐性の強化

売上高の推移

今を底として今後緩やかな回復基調

JAL経営破綻による減便・撤退

航空機の小型化

顧客の経費節減施策

原発の影響による路線の運休・減便

羽田国際線再拡張の供用開始

B787本格投入

JALの再上場

動力料金の改定

FY11

航空需要の回復基調

FY14

FY12~14 競争力強化の集中改革期間

基本方針

コスト競争力を強化し、採算性の低い事業領域の見直し等、スピード感を持ってもう一段踏み込んだ収支改善を図り、安定的に利益を出せる体制を構築する

◆構造改革

- 既存ビジネスモデル・体制を再度見直し、必要に応じて転換を図る
- 増収・コスト削減が見込める投資は計画的かつ確実に行う
- 不採算事業領域の収支改善を図る

◆コスト改革

- 業務の見直しと工夫により、総人員数の圧縮を図る
- 当社グループ間での人材流動化を含む効率的な人員配置を行う
- 基幹要員の採用は継続しつつ、業務量の増減に対応できる非正社員比率を高める

◆事業領域の拡大

- 保有する人材・技術力を活用し、既存業務の周辺分野への進出を図る
- 新規事業の研究・開発を推進する

◆人材の育成

- 新規技術・ライセンス取得等人材への投資を計画的に実行する

各セグメントの取組み

動力事業

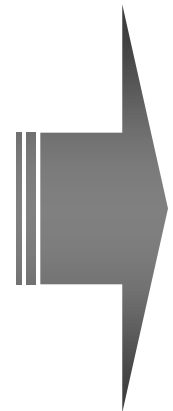
- 新型航空機向け投資
- 採算性の低い事業領域の見直し
(FY12に150百万円程度の特別損失計上見込み)
- 設備の調達コストとランニングコストの低減(PPS活用等)

整備事業

- 弾力的な人材運用による競争力強化
- 空港内周辺業務の横展開および空港外施設の領域拡大

付帯事業

- フードカート販売でのリピート需要や将来案件の獲得
- セキュリティ機器の更新工事や保守領域拡大

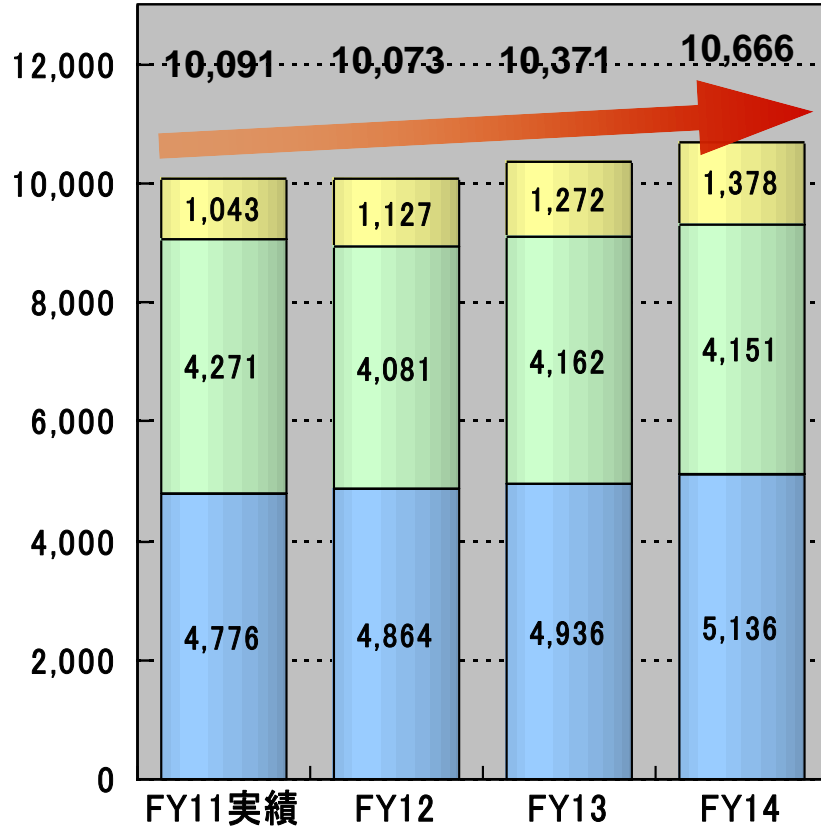


各事業部の基盤強化

収支計画

売上高

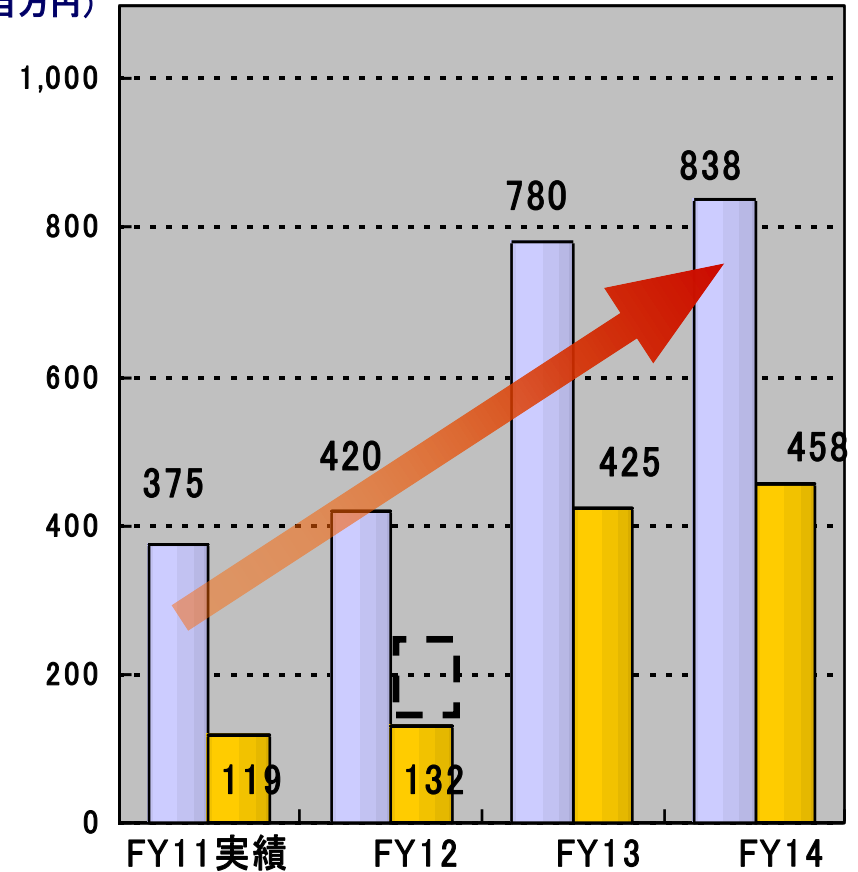
(百万円)



■ 動力事業 ■ 整備事業 ■ 付帯事業

利益

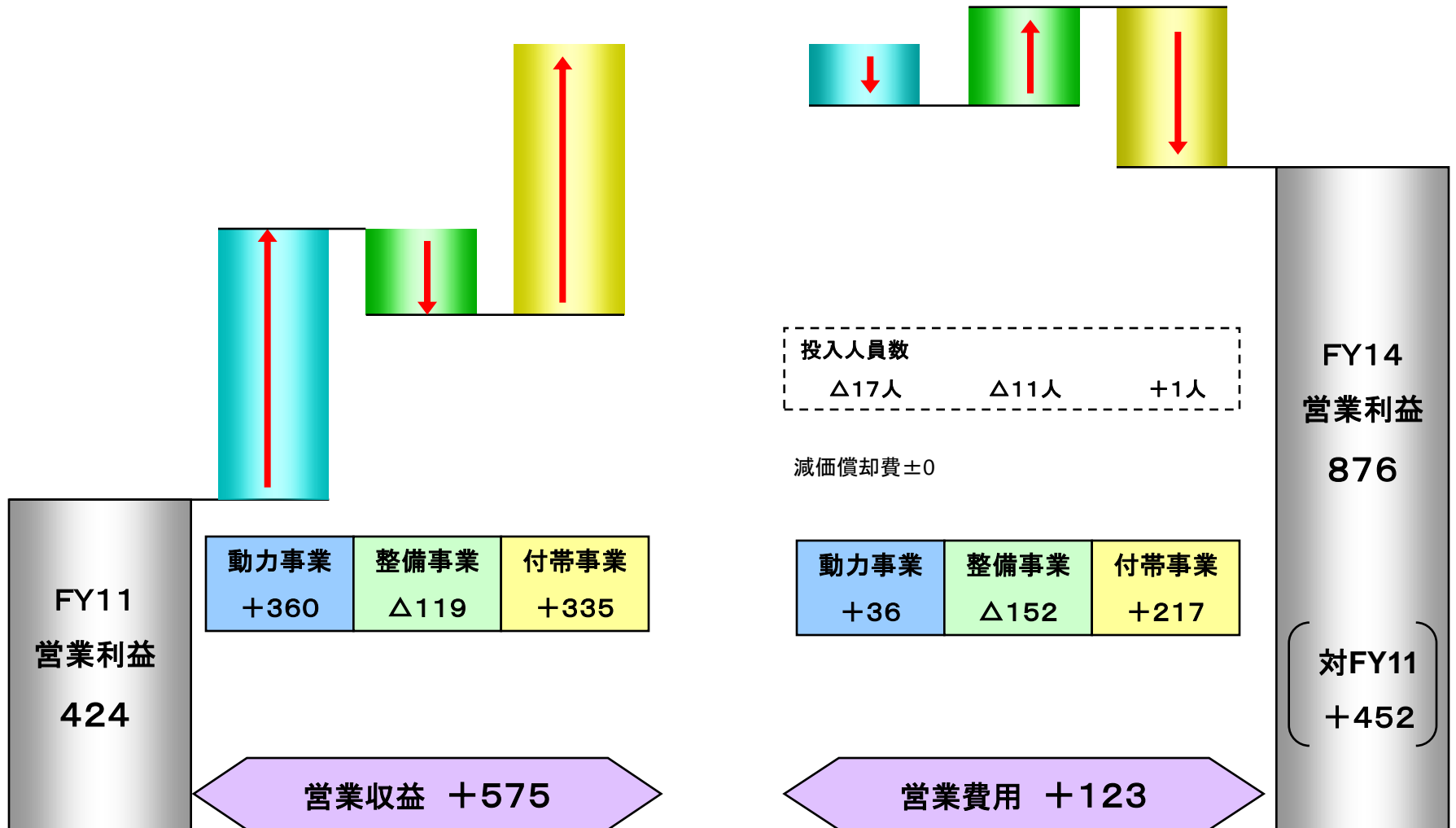
(百万円)



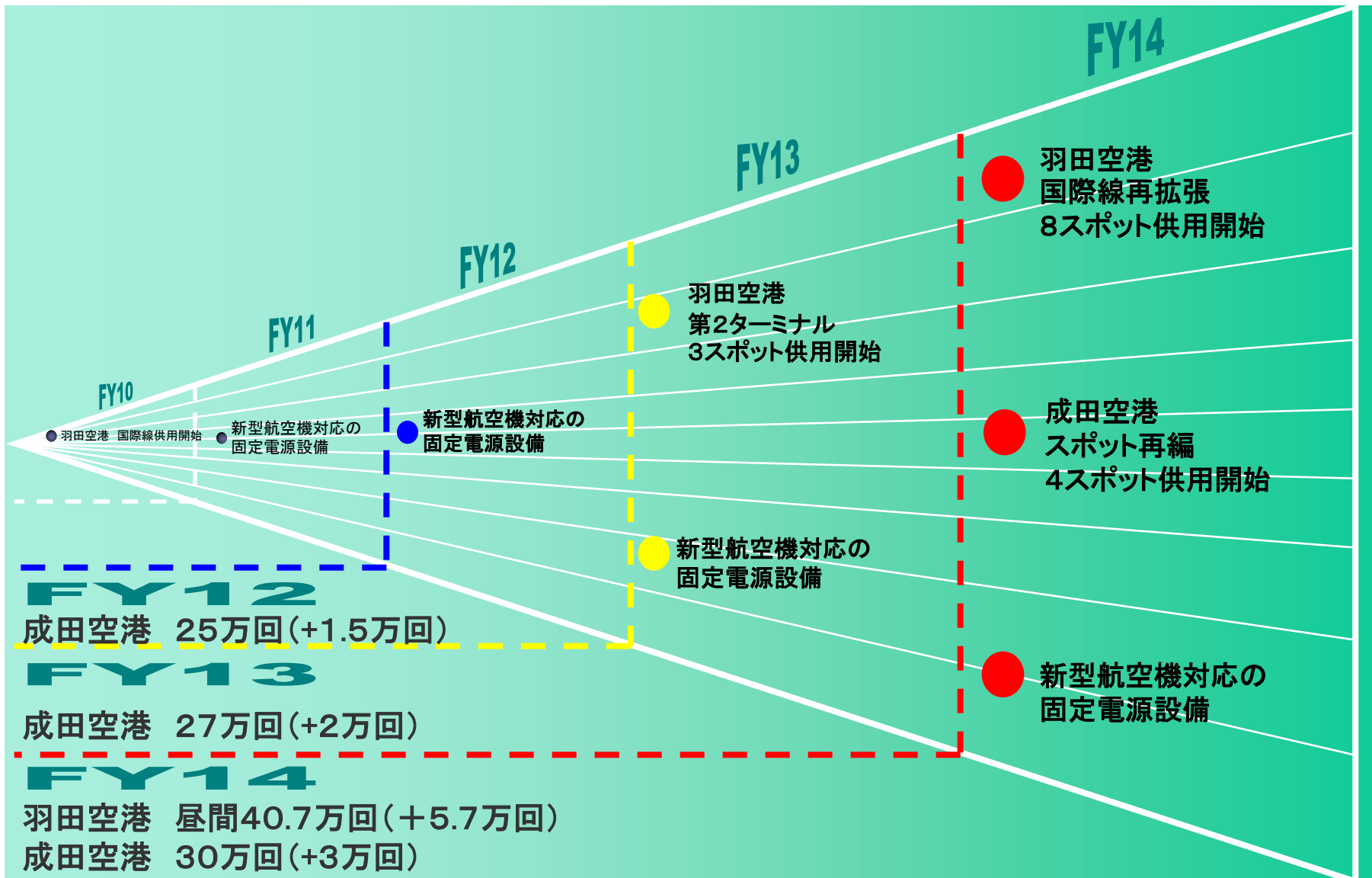
■ 経常利益 ■ 当期純利益

各セグメント毎の営業収支

(単位:百万円)



首都圏空港整備と当社設備投資計画



設備投資額・資金計画・人員計画等

項目	FY11	FY12	FY13	FY14
設備投資額	1億円	5億円	18億円	10億円
減価償却費	9億円	8億円	8億円	10億円
有利子負債 (新規借入金)	31億円 (-)	25億円 (-)	27億円 (8億円)	25億円 (-)
グループ人員数	680人	662人	654人	651人

2012年度見通しと2014年度までの推移

(単位:百万円)

項目	①FY11実績	FY12	FY13	②FY14	②-①
売上高	10,091	10,073	10,371	10,666	575
動力事業セグメント利益	213	335	536	537	323
整備事業セグメント利益	605	530	610	637	32
付帯事業セグメント利益	219	230	298	337	117
セグメント総利益	1,038	1,095	1,445	1,512	473
営業利益	424	463	826	876	452
経常利益	375	420	780	838	462
特別損益	▲53	* ▲184	▲35	▲35	17
税引前当期純利益	321	236	744	802	480
当期純利益	119	132	425	458	338

* 動力事業における採算性の低い事業領域について見直しを行い、150百万円程度の特別損失を計上する見込みです。

純利益は若干の増益となり業績回復の道筋が見えてきたことから、FY12配当につきましては9円に戻す予定です。

2011年度(2012年3月期)

決算説明会



株式会社エージーピー

2012年5月25日

LEVEL XXI東京會館「シルバールーム」

- 本日は、弊社決算説明会にご参加いただきましてありがとうございます。
- 本日配布しました資料に記載されている将来の業績予想は、経営環境の変化などに伴い予想あるいは目標対比が変化し得ることに留意ください。

お問合せ先

株式会社エージーピー 総務部 広報・IRグループ

電話:03-3747-1631

FAX:03-3747-0707

URL:<http://www.agpgroup.co.jp>

(会社案内ビデオがご覧いただけます)

